

開催

「出島メッセ長崎」こけら落としイベント

長崎 MICE EXPO

～ みんなでつくる長崎の未来～



「出島メッセ長崎」の全景



「出島メッセ長崎」こけら落としイベント入口の様子

ふくおかフィナンシャルグループ（以下、FFG）は、2021年11月1日（月）に開業した「出島メッセ長崎」にて、11月12日（金）から3日間にわたり、「こけら落としイベント」「長崎MICE EXPO」を開催しました。

ここでは、「食の商談会」をはじめとする様々な実施内容をご紹介します。

世界とつながる、
新しいDEJIMA

■ FFGの関わり

「出島メッセ長崎」は、「世界に向けて情報発信を続けてきた長崎の歴史を活かし、交流を生み、交流を育むまち長崎の新しい交流拠点」というコンセプトのもと、オール長崎の熱い期待を受けて誕生しました。

私たちFFGは、出島メッセ長崎の建設段階から、この新たな拠点を

長崎経済発展の中核に位置付けたという思い、地元長崎の事業者が出島メッセ長崎を軸

にした「稼ぐ力」を習得し、地域一体となった交流により産業を生み出せるようになることを目的に、長崎の企業向けに、「長崎MICE（※1）スクール」を開講しました。

途中、新型コロナウイルスの影響から、オンラインでの実施も取り入れ、フィールドワークも含めて11回の講義を行い、65社の地元企業が参加しました。

この長崎MICEスクールで学んだビジネスを実践する場が、長崎MICE EXPOでした。

（※1）MICE…企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行



第1回長崎MICEスクール開講
「長崎創生プロジェクト事業」として認定書が授与されました



1.テープカットの様子／2.長崎女子高等学校による龍踊り／3.活水高等学校・中学校吹奏楽部による演奏／4.長崎検番の芸妓衆による唄と踊り

(Incentive travel)、「国際会議 (Convention)」、展示会等のイベント (Exhibition/Event) の頭文字をつなげた造語で、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントの総称です。

長崎の未来を形に

■盛況な開会式でスタート

「みんなでつくる長崎の未来」というキャッチフレーズのとおり、長崎 MICE EXPO には行政・企業だけでなく、家族連れ、学生も含めた多くの市民が参加し、たいへんな盛り上がり、賑わいをもたらしました。

12日の開会式では、長崎市の田上富久市長から、「100年に一度の長崎の変革期を迎え、市民にとって、この場所からどんな物語を作っていくかという夢を育むのが、この EXPO になると思います。経済界にとっては、これからビジネスチャンス

見出していく場にもなりますし、まさに皆で作る長崎の未来を形にしたイベントです」というご挨拶をいただきました。また「新しい社会づくりを若い皆さまの力とともに進めていく。そういう未来が長崎だけでなく、社会全体で始まっていく時期なのです」という力強い言葉が、会場の隅々にまで届きました。

十八親和銀行の森拓二郎頭取は、「長崎 MICE スクールは、多くの地元企業がこの MICE 施設への理解を深め、自社のビジネスにどのよう結びつけるかを考えていただく機会となりました」、さらに、「この出島メッセ長崎だけでなく、西九州新幹線の開業や長崎スタジアム構想などが導く長崎の変化がハードの面だけでなく、市民の皆さまがソフトの面で新しい長崎の未来を築いていく契機となれば」という、大きな期待を語りました。

初日の核イベント 「食の商談会」

「食の商談会」には、十八親和銀行のお取引先である食品メーカー89社と関東・関西、福岡等のバイヤー26社が参加し、オンライン形式も含めた個別商談を実施しました。



1



2

1.個別商談風景／2.フリー商談風景

食品メーカー各社は、自社及び製品などの伝えたい情報を効果的にまとめた「FCPシート（※2）」を用いてバイヤーへ説得力のある説明を行い、当日の商談成立見込みは70%を超える高水準となりました。バイヤーからは、「長崎の海・山の持つ強みがそれぞれの商品に活かされており、完成度・商品力の高さが印象的

でした」、「隠れた名品がこれほど、多くあることを初めて知りました」といった声が寄せられました。

また、「ビジネスソリューション商談会」は、FFGがビジネスマッチングに関して提携している6社による、販路拡大の支援、企業課題解決の提案の場として設けられました。6社からは商品の競争力の向上、バック

オフィス事務の効率化、SDGs（持続可能な開発目標）経営に資する社内体制の構築、外部人材の活用といった観点からの実践的なアドバイ

スがあり、参加したお取引先にとつては非常に有益な商談となりました。

さらに、海外販路の個別相談会では福岡銀行海外駐在員事務所長とのオンライン面談を実施し、参加企

業からは、「生の声で現地の事情を知ることができ、今後のビジネス展開の具体的なイメージを持つことができました」と、満足していただきました。

（※2）FCPシート…生産者の伝えたい情報と、バイヤーの知りたい情報を一枚の紙にまとめることで、効率的かつ効果的に商談を進めることを可能にした商談用の統一シートのこと。

特別講演会も 同時に開催

■専門家の知見が後押し

会場内には展示コーナー、フリー商談コーナーも設置し、食品事業者への支援、SDGs、地方創生に関する企業による実務重視の情報発信、交流等、FFGならではの活動が活発に行われました。

そして、特設ステージではビジネスの各領域における専門家4人を講師としてお招きし、特別講演会を開催しました。

各講演会の内容は、左記のとおりです。

長崎ビジネス商談会 in出島メッセ長崎 特別講演会



SDGs関連セミナー ～持続可能な社会の実現について～

九州大学主幹教授 九州大学都市研究センター長 馬奈木 俊介 氏

SDGsへの社会的関心が日々高まる中、不確実な将来に備えて、企業が持続可能性を重視した経営へ転換するSX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)への取り組みが世界的に普及しています。SDGs・サステナビリティを取り巻く環境及び動向、その他地域社会・地方創生のつながりに関して、「持続可能な社会の実現」をテーマにご講演いただきました。



ビジネスマッチングによる新たな可能性

リンカーズ 株式会社 代表取締役社長 前田 佳宏 氏

企業成長の為には、様々な経営戦略を実施していくことになりますが、全てを自社で完結することは難しく、企業間の連携、協業が必要となります。ビジネスマッチングは最適パートナーの発掘に留まらず、オープン・イノベーションにも繋がります。今後変化する長崎を舞台に、ビジネスマッチングによる創造と可能性を語っていただきました。



食品関連セミナー ～売れる商品の創造について～

株式会社 生産者直売のれん会 代表取締役社長 黒川 健太 氏

日本では人口減少に伴い、食品消費量が減っているため良いものを作っても売れにくくなり価格競争が起きやすくなっています。その中で生き残るために必要なものは何か。自身が扱ってきた商品や食を通じた地域活性化事業の事例を紹介しながら新型コロナショックの影響もふまえ、売れる商品の法則・考え方をご紹介いただきました。



生産性向上セミナー ～IoTによる生産性向上と経営改革～

i Smart Technologies 株式会社 代表取締役社長 木村 哲也 氏

昨今、多くの企業でカーボンニュートラルへの取り組みが課題となり、GX(グリーン・トランスフォーメーション)という言葉が注目されるようになりました。「人には付加価値の高い仕事を」という理念を実践するためのデジタル化による生産性向上、労務費とCO₂の同時削減について、その仕組み構築と有用性をご紹介いただきました。



「長崎ビジネス商談会」を終えて

FFGビジネスコンサルティング ビジネスサポート部 副部長 藤井 努

長崎という街、その歴史は古く、長崎港は開港450周年を迎えました。国内外から多くの人が訪れ交流することで、新たな価値を創造しながら栄えてきました。それは他の地域にはないものです。

我々FFGは、出島メッセ長崎の構想から建設・開業まで、長崎の企業と共に歩んできました。その間に実施してきた「長崎MICEスクール」にて求めた「稼ぐ力」とは「付加価値を生み出す力」であり、「長崎の企業・個人・有形・無形の全てのものを源泉」とします。

MICEは産業振興の戦略的な実現手段でしかありません。例えば、これから、時代のその時々重点分野の産業振興のためにMICEを戦略的に誘致していくと思われます。MICEビジネスの「すそ野の広い経済効果」としてのビジネスチャンスを逃がさずに参入するためには、プロ意識を持ち、良いサービスやプロダクトを「継続的に」提供できることが大切です。

長崎の一つひとつの小さな力が「チーム長崎」の大きな原動力になります。これから社内の体制整備や人材教育を進めながらも、地域全体で連携していくことが重要になります。

したがって、今、世の中で起こっていることを自社に引き寄せて、「自社にとって今何ができるのか」を考えていくこと、まさに、FFGはそのための基礎作りの場を提供してきました。

これからもFFGは長崎に全力に向き合って参ります。これがこれからの地域金融機関のあるべき姿の一つになることを願ってやみません。



1



2

3

4

大勢の市民の参加で、 さらに盛り上がる 長崎MICE EXPO

12日の初日には、活水高等学校・中学校吹奏楽部による演奏が開会式で披露されたほか、長崎検番の芸妓衆による唄と踊り、長崎女子高等学校による龍踊りもあり、出島メッセ長崎の門出にふさわしい、賑やかさが生まれました。

2日目、3日目の13日、14日には多くの市民に楽しんでいただきたいという思いで、多彩なイベントを展開しました。開場前に長蛇の列ができるという、FFGにとって嬉しい驚きもありました。

「テイクアウトマルシェ」、「はたらきっずフェスタ」、「子ども向けドローンプログラミング・体験講座」、「人気声優トークショー」、「出島メッセ長崎 Birthday Live!」、

「eスポーツ体験会」などなど、市民の「食べたい」、「知りたい」、「遊びたい」、「聴きたい」を満たす空間が出現し、まさに出島メッセ長崎の魅力全開だったのではないだろうか。

加えて、「長崎学生ビジネスプランコンテスト」、学生たちが長崎の未来を考え、意見を交わす「Dejicon^{デジコン}」、高校生向けの「金融リテラシー講座」も実施し、若い方々ともFFGの思いを共有することができました。



高校生向け「金融リテラシー講座」を終えて



1.メイン会場前受付ブース/2.長崎学生ビジネスプランコンテスト/3.テイクアウトマルシェ/4.子ども向けドローンプログラミング・体験講座/5.6.7.はたらきずフェスタ「ダンサーになってみよう!」「銀行員になってみよう!」「消防団になってみよう!」/8.西九州新幹線開業1年前イベント



「出島メッセ長崎」こけら落としイベント 「長崎MICE EXPO」を終えて

十八親和銀行 地域振興部 主任調査役 成瀬 博文

出島メッセ長崎は、長崎市が掲げる「選ばれる21世紀の交流都市」の中心施策として建設されたもので、従来の観光客に加え、学会やビジネスによる訪問客を増やし、新たな交流を生み出すことを目的として「現代の出島に」との思いをこめて建設されました。こけら落としイベントはFFG・十八親和銀行が統合・合併記念の一環として、「長崎MICEスクール」に続き、実施したもので、官民一体となつての新産業創造を試みたものです。

企画当初より、「オール長崎でのイベントに」と地場企業・団体に協力の声かけを行い、皆さまとの数度の協議を重ね、イベントタイトル「長崎MICE EXPO～みんなでつくる長崎の未来～」を決定しました。長崎での100年に一度の変化を、チャンスと捉えていただき、企業の皆さま、市民の皆さまがソフトの部分で「新しいチャレンジ」をして新しい長崎の未来を築いていくきっかけになれば、との思いです。

官と民の潤滑油となり、一体となつて開催した本イベントを通じて、あらためて地域金融機関としての業務の広がりの可能性を感じました。今後もさまざまな新しい取り組みを行い、今まで以上に地域活性化のお手伝いをして行きたいと思っております。